

## ◆ 2019年度活動報告シート ◆

団体名：NPO 法人 荒川流域ネットワーク

22A-21

代表者：代表理事 鈴木勝行

URL : <https://arakawa-ryuiki.net>

### 1. 活動が必要とされた状況

埼玉県が実施した「川のまるごと再生プロジェクト」の中で、私たちが提案した入間川の8ヶ所の堰等に魚道が設置された。現在は、「はつらつプロジェクト」事業で、越辺川の2ヶ所の堰に魚道完成し、都幾川で残り1カ所で事業が進行中である。それらの魚道の遡上効果を上げるため、調査と遡上が困難と思われるところに対する遡上補助施設の設置が必要となった。また、親子を対象に標識アユの再捕を兼ねた地曳網を開催し、川遊びの楽しさを体感してもらう必要もあった。

### 2. 活動の内容

3～6月に入間川の菅間堰・浅間堰の魚道に対して、遡上の障害となっている落差を緩和するための遡上補助施設を設置した。4・5月に菅間堰下流で四手網を使い魚類相調査を行うとともに、浅間堰と越辺川の中山堰に新設された魚道で、ビデオカメラを使った映像による調査を実施した。19年は東京湾での稚アユの採捕数が激減し江戸川の稚アユを確保できなかったため、5月17日に20名で栃木産の稚アユを標識放流した。6月1日から友釣り、7月1日から投網による遡上調査を入間川、越辺川水系で実施した。8月10日に都幾川、8月18日に高麗川、9月8日に越辺川で計3回、調査を兼ねた魚捕りイベントを実施した。遡上調査は、10月11日まで実施した。遡上補助施設の設置や調査活動への参加者は延べ286名だった。



### 3. 活動の成果

菅間堰・浅間堰の魚道に遡上補助施設を設置し、落差を緩和することができ、遡上環境を改善することができた。中山堰の新設魚道の調査で、遡上魚137尾を確認できた。2019年は、東京湾からの稚アユが極めて少なく、標識放流したアユも入間川に約2,000尾弱、越辺川に約1,000尾と少なかった。そのため放流の上流で再捕できた標識アユは5尾だったが、田島屋堰の魚道を遡上したことは確認できた。魚捕りイベントの参加者数は合計200名で、子供たち川の魅力を伝えることができた。



### 4. 今後に残された課題

入間川の魚道については、継続的に遡上効果を上げることができる遡上補助の方法を考え、堰所有者了解を得て実施する必要がある。今後設置される都幾川の魚道の効果調査とまだ計画がない高麗川の堰にも魚道設置が求められる。川の魅力を高めるため、入間川水系への遡上アユを増やすことが課題である。